

令和7年度		昭島市立昭和中学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】	
学校教育目標	夢への挑戦 ～ 広げよう可能性 高めよう創造性 ～	ビジョン	【目指す学校像】	(1)知・徳・体をバランスよく育む学校。 (2)人間環境・生活環境が整った安心・安全な学校。 (3)元気な挨拶や歌声が響く活気ある学校 (4)家庭・地域とのつながりを大切にする学校。	
			【目指す児童・生徒像】	(1)自ら考え深く学ぶ生徒。 (2)自他ともに大切にできる生徒。 (3)自分を表現しつつ互いに認め合える生徒。 (4)社会性が身につけている生徒。	
			【目指す教師像】	(1)豊かな人間性を備え、生徒の範となる教師。 (2)生徒と正面から向き合い、信頼される教師。 (3)授業力が高い教師。 (4)組織の一員として学校運営に貢献できる教師。	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎的・基本的な知識や技能の習得、思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学びに向かう力と人間性等を養う。	教師・生徒共に授業規律の維持・向上を図る。	①全授業で昭和中学校授業スタンダードの実践徹底。	4 授業スタンダードによる働きかけを毎時間実施。	3.4	4 「楽しくも規律がある授業である」90%以上。	3.7	生徒は 約87%が肯定的 であり、おおむね授業スタンダードによる働きかけの成果が出ている。	生徒による授業評価が高く、評価できる。	B	より授業スタンダードを定着させていく。
				3 " " " おおむね実施。		3 " " " ～80%以上。					
				2 " " " 半分程度実施。		2 " " " ～70%以上。					
				1 " " " あまりできていない。		1 " " " 70%未満。					
		授業での効果的なICT活用を図る。	①様々なアプリケーションを工夫・活用した授業実践。	4 ICTを有効活用する授業を毎時間実施。	3.3	4 「授業でICTを有効活用している」90%以上。	2.4	生徒は 約74%が肯定的 であり、活用はしているが、教科によって活用しにくい単元があると思われる。	授業でどのような場面で使用するのかのスタンダードがあるとよい。	C	活用の目的を今一度確認し、より有効活用する。
				3 " " " おおむね実施。		3 " " " ～80%以上。					
				2 " " " 半分程度実施。		2 " " " ～70%以上。					
				1 " " " あまりできていない。		1 " " " 70%未満。					
		自分の考えを他者に伝える力を育む。	①話し合い活動と発表を全授業で実施。	4 対話的な授業を十分実施。	3	4 「考えを話したり発表したりが十分ある」90%以上。	2.2	生徒は 約72%が肯定的 であった。教科や単元によって差異があるのが現状である。	話し合い活動の常態化が必要。	C	話し合い活動をパターン化し、意見を出し合い認め合うことを常態化する。
				3 " " " おおむね実施。		3 " " " ～80%以上。					
				2 " " " 半分程度実施。		2 " " " ～70%以上。					
				1 " " " あまりできていない。		1 " " " 70%未満。					
		主体的に学習に取り組む態度の育成と家庭学習の定着を図る。	①シラバスの作成。 ②シラバスに基づく定期テスト前の学習方法の確認の実施。	4 シラバスによる家庭学習推進を確実に実施。	3	4 「学校外の学習時間」平均3時間以上。	3	生徒は 3が最も多かった 。塾等も含んでいる。時期、また生徒によって時間に差異があるのが伺えた。	引き続き家庭学習の大切さを働きかける。	B	試験前や長期休業前に、全ての授業でシラバスを基に家庭学習を推進する。
				3 " " " おおむね実施。		3 " " " 平均3時間未満～2時間。					
				2 " " " 半分程度実施。		2 " " " 平均2時間未満～1時間。					
				1 " " " あまりできていない。		1 " " " 平均1時間未満。					
豊かな心	全教育活動を通じて、人権教育・心の教育を推進し、自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる豊かな人間性を育む。	全教育活動を通じて互いの認め合いから安心して落ち着いた生活が送れるようにする。	①勇気づけ言葉を活用し、頑張らせ、勇気づけ、ほめる指導の実践。	4 勇気づけ言葉を積極的に活用。	3.6	4 「落ち着いて生活できている」90%以上。	3.8	生徒は 約88%が肯定的 であった。学校の雰囲気により、おおむね落ち着いた生活が送れている。	取り組みが定着できていると感じる。	A	このまま肯定的な言葉がけを続ける。
				3 " " " おおむね実施。		3 " " " ～80%以上。					
				2 " " " 半分程度実施。		2 " " " ～70%以上。					
				1 " " " あまりできていない。		1 " " " 70%未満。					
		考え、議論する道徳授業を実践し、よりよく生きる心を育てる。	①内容項目の理解から議論や発問の工夫。	4 考え、議論する道徳授業を毎回実施。	3.1	4 「生活を振り返ってより良くしようと思う」90%以上。	3.4	生徒は 約84%が肯定的 であった。道徳をはじめとし、学校生活を考える習慣がおおむねついている。	引き続き実生活に生きる道徳授業を期待する。	B	毎時間の道徳のまとめ(終末)で日常生活と結びつく振り返りを行う。
				3 " " " おおむね実施。		3 " " " ～80%以上。					
				2 " " " 半分程度実施。		2 " " " ～70%以上。					
				1 " " " あまりできていない。		1 " " " 70%未満。					
		未然防止に努めながら、いじめへの適切な対応を充実させる。	①安全集会による未然防止の指導の実施。 ②毎月の生活アンケートの実施。	4 いじめへの早期対応を十分に実践。	3.7	4 「いじめをしない、見逃さない意識である」90%以上。	2.4	生徒は 約74%が肯定的 であった。教員の意識と生徒の意識にやや乖離がある。	生徒に指導をどう意識付し、定着させていくかが課題。	C	いじめ防止に対する生徒の意識を高める取組を、道徳等を用いてより推進する。
				3 " " " おおむね実施。		3 " " " ～80%以上。					
				2 " " " 半分程度実施。		2 " " " ～70%以上。					
				1 " " " あまりできていない。		1 " " " 70%未満。					
		教育相談を充実させつつ、個に応じた対応を連携して行う。	①校内委員会の充実。 ②合理的配慮の範囲の整理と共通実践。	4 生徒個々の実態に応じた丁寧な対応を十分に実施。	3.6	4 「相談できる大人がいる」90%以上。	2.8	生徒は 約78%が肯定的 であった。一部に相談することへの抵抗感を感じる生徒がいる。	相談への抵抗感の理由を分析しておくことが必要。	B	学級や学年で教員と生徒が適宜面談する時間を持つ。
				3 " " " おおむね実施。		3 " " " ～80%以上。					
				2 " " " 半分程度実施。		2 " " " ～70%以上。					
				1 " " " あまりできていない。		1 " " " 70%未満。					
健やかな体	心身共にたくましく、健やかな生徒の育成を図り、健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。	体育的な活動を効果的に実施し、体力向上と生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成する。	①体力向上に係る個人目標の設定。 ②体育祭等で工夫した活動の推進。	4 積極的な体育活動への参画に向けた指導を十分実施。	3.4	4 「体育的行事に積極的に参加している」90%以上。	4	生徒は 約95%が肯定的 であった。体育祭の成功が大きかった。	体育祭の活発な様子は素晴らしかった。	A	引き続き前向きに取り組める体育行事と体育授業を推進する。
				3 " " " おおむね実施。		3 " " " ～80%以上。					
				2 " " " 半分程度実施。		2 " " " ～70%以上。					
				1 " " " あまりできていない。		1 " " " 70%未満。					
		安全教育・防災教育を推進し安全意識・防災意識の向上を図る。	①安全指導・避難訓練を月に1回ずつ定期実施。 ②セーフティ教室・災害安全講演の実施。	4 計画的・効果的な安全指導を十分に実施。	3.6	4 「安全や健康の知識を生かしている」90%以上。	2.7	生徒は 約77%が肯定的 であった。災害時に直結する指導がやや不足していた。	引き続き実生活につながる指導が必要。	B	学校だけでなく家庭でのあらゆる災害を想定した指導を行う。
				3 " " " おおむね実施。		3 " " " ～80%以上。					
				2 " " " 半分程度実施。		2 " " " ～70%以上。					
				1 " " " あまりできていない。		1 " " " 70%未満。					
輝く未来	学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係を築き、生徒一人一人に応じた指導・支援を図る。	3年間の系統だったキャリア教育の実施から、夢や目標に向けて努力する力を養う。	①適切な進路指導計画の作成。 ②計画的で丁寧なキャリア教育の推進。	4 3年間の計画的な進路指導を十分に実施。	3.3	4 「得意や向いていることを考えている」90%以上。	2.8	生徒は 約78%が肯定的 であった。自分を見つめきれない生徒が若干見られる。	総合学習発表会の質をより向上させることが必要。	B	得意なこと、夢中になること、喜びを感じることでどこから自己を見つめさせた進路指導を行う。
				3 " " " おおむね実施。		3 " " " ～80%以上。					
				2 " " " 半分程度実施。		2 " " " ～70%以上。					
				1 " " " あまりできていない。		1 " " " 70%未満。					
		自治的で成長につながる学校行事を行う。	①リーダー中心の主体性を重視した活動の実施。	4 行事で生徒の主体性を育む指導を十分に実施。	3.4	4 「楽しく学校生活を過ごしている」90%以上。	3.6	生徒は 約86%が肯定的 であった。生徒主体の活動の充実が成果として現れている。	生徒の評価が教師を上回り、とても良い。	A	生徒会を中心とした活動をより支援していく。
				3 " " " おおむね実施。		3 " " " ～80%以上。					
				2 " " " 半分程度実施。		2 " " " ～70%以上。					
				1 " " " あまりできていない。		1 " " " 70%未満。					

・・・評価3.5以上

・・・評価2.5未満

関係者評価 A:十分に達成 B:ほぼ達成
C:もう一歩で達成 D:達成できなかった